

第7回ユニバーサルデザインのまちづくり基本方針区民検討会 会議録

平成22年8月25日(水)

13時30分～15時30分

会場：大田区役所 蒲田地域庁舎 5階 大会議室

資料1-1 アクションプランにおける課題と課題を解決する施策

から1-3

及び行政の取り組み事例

資料2 基本方針構成(案)

参考資料 ひとにやさしいおたくのまちづくり

参考資料 共用品ってなんだろう?

参考資料 豊かな心をはぐくむために

「共用品・共用サービス」について学んでみましょう

[出席]

(区民検討会委員)16名

齊藤会長/宮澤副会長/松田委員/佐々木委員/道音委員/飯尾委員/狹田委員/堀委員/

柳谷委員/古澤委員/飯島委員/鷹西委員/鳴島委員/安達委員/島村委員/坂本委員

(庁内検討委員)16名

福祉部長/まちづくり管理課長/経営担当課長/広報課長/施設管理課長(代理)/国際都市・多文化共生担当課長/観光課長/高齢計画課長(代理)/障害者施設計画担当課長/子育て施策調整担当課長/副参事(蒲田再開発担当)/大森地域計画担当課長/都市開発課長(代理)/都市基盤管理課長/連続立体事業再開発担当課長/教育委員会統括指導主事/

(事務局)

福祉管理課長/福祉管理課担当係長/福祉管理課担当/まちづくり管理課担当係長/まちづくり管理課担当/コンサルタント

(傍聴者) 2名

[議題]

1 開会

開会のあいさつ (司会 大田区福祉部福祉管理課長)

2 福祉部長あいさつ

福祉部長

本日は素案づくりの作業に向け、アクションプランと将来のまちの姿について前回に続けて議論をしてもらい方向性をまとめていただきたいと考えている。御協力頂きたい。

3 会長あいさつ

会長

多岐にわたるテーマについて、これまで行ってきた議論で意見が出そろってきており、方向性が見えてきた。これから素案づくりに向けてとりまとめの段階にあるので、今回も内容についての議論を深め、中間的な集約に向けた会としたいと考えている。ご協力よろしくお願いいたします。

4 議題

参考資料 「ひとにやさしいおおたくのまちづくり」についての説明 副会長
「共用品ってなんだろう？」
「豊かな心をはぐくむために「共用品・共用サービス」について
学んでみましょう」 の説明

(1) アクションプランについて・・・資料 1-1 から資料 1-3

・アクションプランについて

会長

(まちづくりの考え方 1 について) 今回の資料の中にある、第 6 回の検討会・区民委員からの意見についての説明をしていただけないか。

委員

「ユニバーサルデザイン出前講座」というのは、学校でユニバーサルデザインの授業を行うもの。しかし、これは特定の組織の努力に偏ってきてしまっているという問題がある。これを解決するには行政のバックアップが必要となるのではないかと考えられる。

副会長

「まちづくりの会」の活動の一環で総合学習教育を行っているが、あくまで任意の活動にとどまっている。大田区の中で認知され明確な位置づけとなり、予算も確保できる活動に出来ればいいと思う。

この委員会の活動についても今後施策の中に任意付け、活動を広めていくということも考えてはどうか。

福祉管理課長

この資料の書き方については大きくくりな書き方としており、取り組み事例を紹介して載せる、という構成にしている。これは庁内で行われている通常の施策を単に並べる事は

せずに、区民と行政がお互いに協力して、活動に取り組んでいくことを念頭に置いているためだ。

委員

これまでの議論の内容をふまえた書き方としてこの考え方1の内容はよいと思う。まちづくりの考え方3の推進について、資料にある、「ユニバーサルデザインサポーターの育成と活動の推進」という事案例に「障がい者、外国人などが、どのようなことに困っているのか理解できない」という課題が反映されているのかどうかをお聞きしたい。

委員

そもそも色々な場面でユニバーサルデザインという言葉が出ている。もう一度ソフトについて考えると、母国語を話せない外国人という社会的弱者を対象に入れるのかどうか疑問である。例として親の都合で仕方なしに母国語以外で育っていく子供に対してのサポートなどは現在整備されていないと思っている。こういったことに対する取り組みもユニバーサルデザインとして考えられるのであれば素晴らしいものだと思うし、今後大田区が国際的な立場に立つときの橋渡し役となってくれるだろう人材を育てることにもつながるため、重要な視点であると思う。

福祉管理課長

まず、サポーターについては、色々な立場の人がユニバーサルデザインを広げていく様なイメージで考えたもので、ワークショップに参加するなどしながら、活動を推進させ、徐々にサポーター数も増えていくというイメージだ。ただしこれはまだ案で、具現化するにはハードルがあると考えている。

また、本日参考資料で配付した「共用品」の内容に関して日本では「品物」という具体的な形でユニバーサルデザイン化が進められてきた。アメリカなどでは、具体的な形と言うよりも、まず思想的な背景があった。それは、数々の文化や宗教などを超えた発想が必要とされたためだと思う。今後はサポーター制度も含めた活動や取り組みが、行政が係わりながら進めることで様々な、問題が解消されるようになればいいのではないかと考えている。

会長

「だれもが」というテーマから外国人の子供も対象に入るのではないかと考えられる。市民団体活動などがあるように、それぞれの立場の市民が力を出し合っていくために何をしたらいいのか、また、その事業を展開していくためにどうしたらいいのかについてアクションプランを考えるべきであろうと思う。

委員

まちづくりの考え方「互いの違いに気づき 思いやりの心をはぐくむ場や機会を作ります」という中に、外観だけでは分からない「違い」ということに対しての言葉がない。「自分は普通」と考えている人も「同じ」なのだということが入っていない。

福祉管理課長

今回の言葉は前回までの議論をまとめた内容として表現しているつもりであり、ご指摘のように気づくのが出発なのだという考えからこの案となっている。

委員

この検討会に出席されている委員の皆さんであればこの内容で理解できると思うが、一般の人たちが、これを読んだだけで理解するのは難しいのではないのでしょうか。

委員

ユニバーサルデザインは、前回あったスパイラルアップの内容で説明がされていると思うが、一言で言えるものではない。みんなで考え、進めていくものだと思う。こうしなさいという概念は当てはまらないものだと思う。

委員

何度言っても気づかない子供もいれば、大人もいる。これは教え込むものではなく気づいたことを、日常生活の中で再度経験したりしながら思い出したりすることで自然と理解が深まっていくと思う。私は現在のこの表現でいいと思う。

委員

私は気づくだけでなく、障害となる原因を持った人たちを見て、「違い」はあるが、結局は自分も「同じ」であることに気づくことが大事ではないかと考えている。

委員

どうしても気づかない人がいる中で、気づくという行動に移せない事情がある人もいるのではないか。私の立場からいうならば、DVが例としてあげられる。また、私はムーブメントというかたちでの活動をおこなっているが、外国のお子さんたちも同じ事を体験するということを通じて、お互いの特徴を気づくということもありうる。やはり気づきということが大事と考えているのでこの案でいいと考えている。

委員

私は具体的にいうならば「皆が同じ」という言葉を入れるべきだと思っている。

会長

委員のおっしゃる内容については検討していただきたい。「まちづくりの考え方2」についてはどうか。

委員

この部分はハードについてのことだが、大事なのは「どの場所で、どのようにやるのか」ということではないかということだと思う。例えば横断歩道の縁石段差の部分については「簡単に移動・利用ができる」とは言い難い状況だと思う。今後ハードについて進めるに当たっては場所を絞って行ってはどうか。

福祉管理課長

モデル地区というのは必要であると思う。予算的に考えられているわけではないが、区全体にも分かりやすいユニバーサルデザインのアピールとなると思う。しかし、現段階では方向性までを検討いただきたいと考えている。

委員

「ハード」のまちづくりについては、技術的な部分が多くを占めている。現在、まちづくり課などはどういうことを考えているのか。

まちづくり管理課長

現在、「バリアフリー基礎調査」というものを行っている。これをユニバーサルデザインとどう結びつけていくのかが今後の課題であると考えている。来年度、具体的な重点地区についてユニバーサルデザインとの連携を考えて議論が必要になってくるのではないかと考えている。

委員

蒲田駅周辺は以前と比べ使いやすくなったとは思いますが、まだ駐輪や路上看板など自治体で整備誘導をしても直らない所がある。自分が使いやすいことだけを考えたものになっている。いくらハードを整備したとしても、「気持ち」の部分を変えていかなくてはいけないのではないかと思う。

副会長

ハードは「こうでなくてはいけない」ではなく、終わりなく続けるものであると思っている。私は次のステップに入るべきだと思っている。本日のまちづくりの考え方1についても意見が出ていたが、がっちりと決めてしまうのではなく来年度以降変わっていく

ものであっていいと思う。ワークショップなどをすれば出てくる意見などもあると思う。今年度、来年度、ゆとりを持った進め方が適切であると考えている。

委員

近年は電線の地中化などが見られるようになった。ハードの部分について改善出来る事というのは進歩、変化していく。また、公共施設を直すことでかえってバリアになるということもある。全員に合うように整備は出来るものではなく、常に見直していくことが大事であると思う。

委員

大森駅でも東口地区と山王地区では違いがある。地域ごとの考え方がありトータルにまとめていくというのが必要なのではないか。

委員

この検討会の話し合いというのは名称が変わったとしても続けていてもらいたい。ユニバーサルという言葉にはそういう意味があるはずなので、1回きりで終わらないで繋げていくことを考えた方がいいと思う。また、多くの人に知ってもらうことで次に繋がるものだと思う。

会長

では、「まちづくりの考え方3」に移りたい。継続的にUDを実践していくには、組織や取り組みはどうしていったらいいか、どういう風にして周りに伝え、進めていったらいいかという推進体制について意見を頂きたい。

副会長

スパイラルアップの考え方にに基づきながら、庁内の方にもワークショップに加わっていただき、「お互いのことを知りながら共通のことを考えていこう」「共有しながら検討していこう」という考えを「まちづくりの考え方3」にも入れていただくようにしていただきたい。

福祉管理課長

貴重な意見を各委員から頂いている。ユニバーサルデザインはつくって終わりというものではなく、継続が大事と考えている。何らかの形でこの会を継続することを考えたい。また、検証と推進の場を設けていきたいとも考えている。

委員

以前説明してもらった、車に例えると「ソフト」と「ハード」が両輪とすれば「しくみ」というのは「エンジン」であるというのはよいと思った。推進にあたって庁内の連携・協働や区民と行政が互いに知ることが大事ではないかと考えている。結果としてより分かりやすいサインの整備などに繋がる事もあると思う。ワークショップは効果的な手法であると考えられる。羽田の新ターミナルがオープンするがこれまでに2年半で36回ワークショップを行っている。

「まちづくりの考え方1」と「2」の中に「まちづくりの考え方3」の考え方を入れていてもいいのではないか。特に「まちづくりの考え方2」に区民や庁内各部署との協働といった事を強調していただくといいのではないか。

委員

9月から「区民活動支援施設蒲田」がオープンする。その場所は是非活用していただいた方がよいと思う。国際交流・多文化交流の場としてだけでなく、ユニバーサルデザインを広げていく場として活用されるのに適している。関心を持っていただきたい。

会長

資料2を参照いただきたい。先ほどの意見をもう一度ご説明いただきたい。

委員

私は「まちづくりの考え方2」が他のものと比べて浮いたものになっているのではないかと感じた。利用者との協働により建物の整備を進めるという意味を込めるとか、そういうものは「まちづくりの考え方3」に込められているのであるというのであればいいと思う。今後見直ししていけるのであれば、特に問題はないかと思う。

福祉管理課長

先ほどの意見なども考慮しながら、今後素案をまとめるまでにご理解いただきながら形にしていきたいと考えているので、ご協力願いたい。

委員

資料がよくまとまっていると感じている。ハードについては、歩道橋の必要性についてご検討願いたい。この近辺では環八沿いにある歩道橋だが、歩道を狭くしてしまうので外した方がいいのではないか。また、切り下げの部分について、勾配が適切ではないものがあり老人はつまづく方が多いと聞いているし、自分も見直す必要があるのではないかと思う。

都市基盤管理課長

歩道橋についてはかなり外している。今後も外していく予定でいる。ただしこれは警視庁との関連性があるので安全面での検討も必要だ。切り下げについては改修工事を行っている。現在も続けて取り組んでいる。

委員

以前の検討会で鉄道会社から、利用者の意見を集めた「意見書」というものがあるということを知った。それは見せてもらえないのか。また、ユニバーサルデザインとは、バリアフリー+心のバリアフリーであると私は理解するに至ったが、その先進国とされるスウェーデン(?)では実際にどのような工夫がされているのか知りたいと思った。

委員

羽田の新国際ターミナルを見ていただけるといいのではないかと。京急も東急も入っているので参考になると思う。羽田空港のユニバーサルデザインの取り組み事例というものが出ているので、そちらも参考になるはず。

歩道橋などの取り組みなど具体的な話をしてもらうととても参考になるので、今後お願いしたい。

委員

羽田のターミナルビルについてはユニバーサルデザインの完成形としてみている。今後は是非蒲田駅のユニバーサルデザインを取り上げてもらいたい。時間は掛かると思うが「まちづくりの考え方2」にいれて取り組んでほしい。

委員

分かりやすく区民にユニバーサルデザインを理解してもらう為の提案だが、地域の色々な箇所にJ Tの看板のように、提案内容を一つだけに絞ったものをいくつか掲示していく事はどうか。目に付くように色々なところにあればいいと思う。企業・お店・施設に協力してもらえるのではないかと。たとえば、「大田区ルール」というように掲示してはどうか。

会長

資料2について「将来のまちの姿」「まちづくりの考え方」「アクションプラン項目」という構成についてはよいということを確認できた。「まちづくりの考え方2」と「3」についてはもう少し工夫が必要ということで意見があった。「アクションプラン」は13の組み立てでよいということを確認できた。「アクションプラン」の内容については、本日出した意見の内容を入れ、素案づくりを進めていただきたい。

また、今後より多くの区民の方から意見を頂き内容を深め、精査していきたい。
これとは別にUDのワークショップというのが可能であれば庁内で検討も行ってもらいたい。私は計画を作るだけでなく実行することが一番大事と思っているのでワークショップは有効な手段だと思う。

福祉管理課長

この内容に足りないものは、可能な限り盛り込ませてもらいたいと思っている。この他にも、視点として住宅のバリアフリー化の部分について触れられていないといった、欠けている部分があると思う。続けてご意見願いたい。また、区民の皆さんからも意見を頂きたいと考えている。

5 その他

次回会議の開催について

第8回 平成22年9月24日(金) 10時00分から(予定)

6 閉会